

f. プログラムの質の保証

「Staying Positive: Self-Management workshops Workshops」のプログラムには質の保証のシステムが作られています。これには、虐待からの子供の保護に関する規則、ファシリテーターの役割規定、ファシリテーターの研修、トレーナーの職務規定、監査のプロセス、大人の世話人の役割規定と研修が含まれています。虐待からの子供の保護についてはイギリスの法律に基づいて決められているため、この部分はこの報告書からは削除します。しかし、日本で子供のプログラムを開発する場合には、日本の法律に遵守した決まりを作ることが必要と考えられます。ここでは、ファシリテーターの役割規定と研修、さらに大人の世話人の役割規定と研修に焦点を当てて述べていきます。⁹

● ファシリテーター役割規定

ファシリテーターの条件は15歳から23歳の慢性の病気をもつ人で、子供のワークショップを教えたい人であることです。14歳以下の子供でも精神的に成熟していたり、教えることに熱心であれば、ファシリテーターになることはできます。

ファシリテーターになるためには、

- 1) まず3日間の宿泊研修を受け、
- 2) その後、毎年、半日の最新情報やサポートを目的にしたミーティングに2回参加し、
- 3) 3日間のワークショップを少なくとも年間1回教え、
- 4) 建設的なフィードバックを受け入れることができ、
- 5) 16歳以上であると、個人背景に関する調査を受ける必要があります。

ファシリテーターの3日間の宿泊研修は1回15人で、年間4回実施しています（8人以下では実施しません）。

さらに、ファシリテーターが

- 1) 3日間の宿泊研修に参加し、
- 2) 3日間のワークショップを1回教え、
- 3) 最新情報とサポートミーティングに全部に出席し、
- 4) ワorkshopを教えているところをトレーナーが1回見学評価する

という条件を満たすと認定保証を受けます。

ファシリテーターへのEPPCICからのサポートとしては、

大人の世話人が割り当てられていて問題状況への相談ができること、

また、

トレーナーがワークショップの教え方についてフィードバックをしてくれること

が挙げられます。

さらに、3日間のワークショップを1回教えたら、ファシリテーターは1日のワークショップに40ポンドの謝礼をもらえます。3日間では120ポンドになります。さらに、交通費も支給されます。

● ファシリテーターの研修

3日間のファシリテーターの宿泊研修で学ぶことは：

- 教えられる基本的なトレーニング技術には、コミュニケーションの基本、ファシリテーター間でのチーム作り、参加者のモチベーションを高めること（安心した雰囲気作り、満足した気持ち）、上手なフィードバックをすること、参加者の学習方法を知ること、ボデーラングウエジを理解すること、グループの運営の仕方が含まれます。
- 基本的なトレーニング技術以外に、下記の事柄についても学びます。
- 模造紙の使い方
- 話し合いはとても大事なので、話し合いが進んでいるようであれば時間に関係なく続けるようにすること
- 演習の時間配分に関しては、始まりと終わりの時間は守るようにはする必要があるが、それ以外には参加者の人数や参加者のニーズで柔軟性をもたせること。休憩時間が長く必要であれば休憩時間を長くとってもよいこと
- 休憩時間に参加者と話をしたり、励ましたり、参加者の様子を観察してだれか大変な思いをしている参加者がいないか気をつけておくこと
- 問題状況にいかに対応するかというトレーニング
- 話し合いは余り深くつっこんでいかないようにすること
- 分かち合い、お互いからまなぶことが大事であること
- 参加者のお手本になることが大事であること
- 最終日に模擬演習を実施します。そこで、トレーナーからのフィードバックを受けません。

● 大人の世話人の研修

大人の世話人は子供のことを良く知っている人であり、慢性の病気をもつ子供が抱えている問題への理解をもっている人であることが条件です。

大人の世話人はEPPCICプロジェクトマネージャーが提供している2日の研修を受ける必要があります。1日目は虐待から子供を保護することに関する事柄、マニュアルのこと、そして、2日目は救急処置や参加者がもつ病気への救急対応について学びます。例えば、喘息発作への対応、低血糖状態、鎌状赤血球貧血の発作への対応等です。現在までに80人の人が研修を受けて認定を得ています。

大人の世話人の仕事の内容としては、

- 1) ワークショップの間施設の中にいる、
- 2) ワークショップの会場が安全であることの確認、
- 3) ワークショップの最中に生じる問題に対応すること、
- 4) ワークショップ開催1週間前にファシリテーターに連絡をとり準備が完了しているか確認すること、
- 5) ワークショップが開始前にファシリテーターが内容を十分理解していず問題があればそれへの援助をする、
- 6) ワークショップが進行中の部屋の中には入らないが、休憩時間等にファシリテーターの相談に応じる、
- 7) 子供の虐待が生じているのではと疑われる事柄がワークショップの中で出てきた場合、その対応についてファシリテーターをサポートする、
- 8) 終了後、参加者がそれぞれの保護者に無事に引き受け渡されることの責任をとる、
- 9) EPPCICのトレーナーへの報告義務が含まれます。